

第 17 回年次大会

■大会開催日時：2007 年 6 月 23 日(土)、24 日 (日)

■会場：大阪商業大学

〒577-8505 東大阪市御厨栄町 4-1-10 大阪商業大学 飯田研究室

日本移民学会第 17 回年次大会実行委員会

■問い合わせ先

【大会担当者】 飯田耕二郎

(FAX) 06-6781-8438 (E-Mail) iida(a)daishodai.ac.jp

【事務局】 森本豊富

(電話・FAX) 04-2947-6789 (E-mail) imingakkai(a)yahoo.co.jp

E-mail は(a)を@に変換してご利用ください。

大会テーマ 「労働力としての移民女性と日本社会」

大会第 1 日目 6 月 23 日 (土)

9:30~10:30 四役会議 (449 講義室)

10:30~12:30

第二回運営委員会 (449 講義室)

12:00~受付開始 (3 階エレベーターホール)

13:00~13:50 ビデオ上映 (432 講義室) Stand up for Justice: The Ralph Lazo Story 第 2 次世界大戦中、二世の友人たちとマンザナ収容所で 2 年半の歳月を過ごしたメキシコ人とアイルランド人の血を引くラルフ・ラゾのドキュメンタリー・フィルム。

13:00~13:50 ラウンド・テーブル (4411 講義室)

テーマ「移民研究の最前線：移民研究の軌跡と展望—学際的研究分野としての可能性」

司会：椿 真智子、報告者：森本豊富、ディスカッサント：菅 美弥

14:00~16:50 シンポジウム (432 講義室)

テーマ 「労働力としての移民女性と日本社会」

趣旨説明 村川庸子(敬愛大学国際学部)

報告者

武田 丈 (関西学院大学)「フィリピン女性エンターテナーのライフストーリー」

イシカワ エウニセ アケミ（静岡文化芸術大学）「在日日系ブラジル人女性」
柳 蓮淑（御茶ノ水女子大学博士後期課程） 「定住化する移住女性と地域社会—山形県在住の韓国人妻の事例を中心に—」
コメンテーター 田中宏（龍谷大学）、村井忠政（名古屋市立大学）

趣旨説明：

日本の少子高齢化の危機感を背景に、外国人労働者受入れに関する議論が盛んである。積極的受入を求める財界に対し、政府は不熟練労働者の受入には慎重な構えだが、現実には研修や留学生、不法入国などの形で就労する者の数は急増しており、平成12年末現在で外国人人口は131万人1千人、既に総人口の1.03%、平成7年から12年の5年間で14.9%の増加となっている。かつて外国人人口の大半を占めていた在日韓国・朝鮮人は高齢化により減少傾向が進み、他方で1980年代以降に来日し、定住したニューカマーが急増している。ニューカマーには中国・韓国出身者も多く含まれている。

様々な懸念材料をはらんだ問題であるが、今年のシンポジウムでは女性、特にニューカマーとして来日している女性移民に注目していきたい。原則として「日系人以外」の単純労働に就労ビザを発給しない政策をとる日本ではあるが、先述の通り日本で働く外国人の数は急増中である。暴力団がらみの風俗店での売春、不潔で危険な職場での労働が行われていると指摘される。観光ビザで来日し、期限が切れても不法滞在を続けて就労する者は摘発されれば強制送還される。他方で、嫁不足の農村などに嫁ぐ外国人花嫁も増加していると聞く。このような現代の日本の移民問題は、特に女性移民に関しては性風俗の問題、再生産の問題などと絡み、必ずしも実態が知られておらず、十分な議論がなされてこなかったように思われる。昨年はフィリピンとの自由貿易協定による看護師・介護士の導入がホットな問題となったが、このような状況の中でこの問題を現時点で考えておくことは本学会にとっても必要なことではないかと考えている。

今回のシンポの第一報告は山形県の農村への韓国人花嫁、第二報告は在日ブラジル人女性、第三報告はフィリピンエンターティナーに関する永年の調査に基づく実態調査報告である。

17:00～17:50 総会①（432 講義室）

18:00～19:30 懇親会（4号館1階 食堂 S - t e r r a c e）

大会第2日目 6月24日（日）

8:30～9:30 第3回運営委員会

9:30～12:30 自由論題報告

A会場（433 講義室）司会：和泉真澄（同志社大）、物部ひろみ（同志社大）

岩村益典（国立台湾師範大学歴史研究所博士候選人）「日本統治時代の台湾花蓮港における農業官営移民の性格と位置づけ—植民地主義・帝国主義との関連に於いて—」

デイ多佳子(北イリノイ州立大学人事部)「ジュン・フジター1920年代の激動のシカゴを記録した日本人報道写真家―」

深 豊幸(同志社大学大学院アメリカ研究科博士後期課程)「カリフォルニア州グレーンジ(California State Grange):同州の農民組織による日本人移民排斥運動への関与の過程に関する考察」

中村茂生(立教大学アジア地域研究所 研究員)「ブラジル日本移民の開祖:水野龍像の再検討―伝記の整理と評価の更新―」

B会場(435 講義室) 司会:白水繁彦(武蔵大)、石川真作(京都文教大)

陶山宣明(帝京平成大学現代ライフ学部経営マネジメント学科)「戦後期のカナダの移民難民政策決定過程」

新海英史(名古屋大学大学院国際開発研究科博士課程)「在オランダ移民の社会適応の実相―移民が語る「市民化講習」への期待と不安―」

柴田寛之(早稲田大学大学院政治学研究科博士課程)「日系ブラジル人に対する地方自治体政策の歴史的展開:群馬県大泉町と静岡県浜松市を事例として」

金城宏幸(琉球大学法文学部)「沖縄社会の越境的ネットワーク化とダイナミズム―第4回世界のウチナーンチュ大会参加者アンケート調査を中心に―」

C会場(441 講義室) 司会:山本かほり(愛知県立大)、東元春夫(京都女子大)

小嶋 茂(JICA 横浜海外移住資料館)「日系人とは何か?―日系人の定義とその変遷に関する考察―」

根川幸男(ブラジリア大学外国語・翻訳学部(職階:助教授))「ブラジルにおけるエスニック日系新伝統行事の創出―七夕祭りの再創と展開を中心に―」

小林孝広(早稲田大学人間科学学術院)「エスニックな資源の運用からみた在日フィリピン食料雑貨店サリサリストアの生活戦略」

東 聖子(早稲田大学大学院人間科学研究科 博士後期課程)「滞日スィク教徒にみる<装い>の変容」

12:30~13:30 昼食

13:30~13:50 総会②(432 講義室)

13:50~16:30 開催校企画シンポジウム(432 講義室)

テーマ「1930年代における来日就学生の体験―北米・ハワイおよび東アジア出身者を事例に」

司会 山本剛郎(関西学院大学)

報告

守屋友江（阪南大学）「日系二世仏教徒にとっての日本体験の意義」（仮題）

中原ゆかり（愛媛大学）「ある帰米二世の音楽体験」（仮題）

河原典史（立命館大学）「朝鮮籍学生の就学と就業—立命館大学の場合—」

成瀬千枝子（関西学院大学非常勤講師）「台湾人と中国人の日本留学体験—女子留学生を中心として—」（仮題）

コメンテーター 坂口満宏（京都女子大学）

16:30～17:30 第4回運営委員会